

シュリ・シュリ・ラヴィ・シャンカール プロフィール

1956年南インド生まれ。幼い頃より瞑想を自然に行う。

マハトマ・ガンディーを支えてきたスーダカール・チャトゥルヴェディ氏の教えを幼少から受け、17歳で現代科学および古代ヴェーダ哲学の学位を修める。29歳でインド首相よりヨガ・シロマニ（悟りに達した崇高なる教師の意味）の称号を受ける。

1981年に人道支援・教育支援の国際NGOアートオブリビングを創設。

「ストレスや暴力から解放された社会を創り出す」という理念のもと、ストレスを取り除く呼吸法や瞑想の指導、講演を世界中で行なう。インド古来の教えに基づいた心身のストレスを取り除くスダルシャン・クリヤ呼吸法を考案。

また、イラク、コソボ、スリランカ、中東、コロンビアなど世界各地の紛争解決、ハリケーン・カトリーナ、ハイチ大地震、東日本大震災などにおける復興支援、トラウマ解消プログラム、刑務所での受刑者更生プログラム、貧困の農村地における無償教育学校運営などの社会的活動をおこなっている。アートオブリビングの呼吸法、瞑想や社会貢献活動は、現在155カ国で行われている。

姉妹団体IAHV(International Association of Human Values 国際ヒューマンバリュー協会 本部：ジュネーブ)と共に、Ethics in Business Forumを欧州評議会本部、国連ジュネーブ事務所、OECD本部（パリ）、インド、南米で開催。政治、経済、宗教、科学、スポーツなど分野を超えたトップリーダーの議論を通じて多様性の共有と課題解決の場を創り出している。2015年からFIFA本部にてEthics in Sportsも開催。

国連ミレニアムサミット、NASA、FIFA、世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）、欧州議会本部、UNESCO本部、CERN、スタンフォード大学、イギリス議会、フランス議会などでも講演をおこなう。シンプルかつ本質的でユーモアに溢れた話は、あらゆる分野、立場を越えて、多くの聴衆をひきつける。

国連による国際ヨガデー制定に尽力し、2015年第1回国際ヨガデーでは、国連ニューヨーク本部にて講演、国連職員向けにヨガと瞑想をおこなう。潘基文事務局長も夫妻で参加。参加した職員からは、交渉前にヨガや瞑想を今後取り入れたいという感想が出る。2016年第2回国際ヨガデーでは、欧州議会本部にて講演、ヨガ、瞑想をおこなう。現在、世界銀行、世界保健機構(WHO)、マイクロソフト、アクセンチュア、BCG、ハーバードビジネススクール、ウォートンビジネススクールをはじめ30カ国・200を超える組織で実施されている、呼吸法や瞑想を含む組織・企業向けプログラムTLEXを発案・実施。

2015年コロンビアのゲリラFARCとの和平交渉をおこない、FARCが一方的停戦を宣言。50年以上続いたコロンビア内戦の停戦合意へと導く。現在、コロンビア政府、南米各国と平和復興プログラムを実施中。

暴力とストレスのない社会の実現に向けた献身的な活動に対して、インド、アメリカ、ロシア、モンゴル、南米各国から国際的な名誉賞が授与されている。2006年ノーベル平和賞候補にノミネートされる。2012年、2013年来日時、首相官邸公式訪問。2016年インド政府より国民栄誉賞パドマ・ビヴーシャンを授与される。2017年4月初旬来日予定。